

Aコース

Bコース

Cコース

Dコース

15

長浜万蔵翁の銅像

本郷通8丁目北



本郷商店街誕生の功労者「長浜万蔵」の銅像で、昭和40年(1965)に建立されました。

本郷商店街は、昭和31年(1956)に創設され、住宅街のないところに先に商店街が出来上がったユニークな商店街になりました。

「本郷」の由来は南郷と本通の中間であったことから名付けられました。

✓ 着いたらチェック

Cコース

菊水・菊水上町巡り 5.2km



スタート・ゴール やよい公園 (地下鉄菊水駅5番出口徒歩1分)

16 旧国鉄東札幌駅周辺の工場地帯跡

17 宇都宮牧場跡

18 有島武郎邸跡地

19 北海道庁立札幌治療院 札幌市助産所跡

20 札幌遊郭(通称:白石遊郭)跡

21 白石村1番

Aコース

Bコース

Cコース

Dコース

16

旧国鉄東札幌駅周辺の工場地帯跡

菊水1条3丁目 やよい公園内



旧国鉄東札幌駅周辺の工場地帯跡

豊平区から白石区の菊水・東札幌地区一帯にかけての地域は、大正時代から昭和40年代にかけて、鉄工、ゴム、繊維、木材などの工場群が立ち並んでいた。定山渓鉄道(大正7年開通)、国鉄千歳線(大正14年開通)が交差する国鉄東札幌駅を中心とする地域は原材料の運搬には都合がよく、しかも札幌という巨大な市場をすぐ近くに控えていたからである。

主なものとして北都ゴム工業所(大正11・菊水1-3)、三共ゴム工業所(昭和2・菊水7-2)、白熊ゴム(昭和23・東札幌1-3)、豊平製鋼所(豊平1-9・東札幌1-2)、北日本毛織(東札幌3-2)、さらに多数の木材工場があった。

昭和30年代後半に高度経済成長期に入り、工場と住宅が密集した状態となつたため、市の計画で順次西区の工業団地などに移転した。



✓ 着いたらチェック

17

宇都宮牧場跡

菊水1条4丁目6 菊水やよい児童会館前



日本近代酪農発祥の地—宇都宮牧場跡

明治35年(1902)から昭和2年(1927)までの25年間、ここに広さ20haの宇都宮牧場があった。

大分県生まれの宇都宮仙太郎は、明治18年に牧場経営を志して北海道に渡った。札幌県立真駒内牧場での実習で不足な分は英語の文献を読み、さらに理解を深めるためにアメリカに留学した。帰国後の明治35年に上白石村(今の菊水1~3条3~5丁目、東札幌1~2条1丁目付近)でサイロなどをもつ本格的な牧場を開き、近代的な飼育、牛乳販売、バター製造などを開始した。

民間人初の種牛輸入による品種改良、共同組合方式の資材調達、本格的なバター製造など、どれ一つとっても時代の先端をいくもので、日本の近代酪農の基礎を築いた。仙太郎は全国から慕って来る後継者を育て「日本酪農の父」と呼ばれ、アメリカに留学してホルスタインの品種改良に努めた長男の勤は「日本ホルスタインの父」と呼ばれた。



✓ 着いたらチェック

大分県生まれの宇都宮仙太郎は、アメリカ留学を経て、明治35年、白石村上白石に20haの近代的な農場を開きました。

バターの製造や牛の品種改良を行うなど、当時としては先進的な酪農技術の発信地でした。

18

ありしまたけお
有島武郎邸跡地

菊水1条1丁目 豊平川河岸公園内

※公園再整備につき一時撤去中



ありしまたけお
有島武郎邸跡地

作家有島武郎が、東北帝国大学農科大学(現在の北海道大学)教授をしていたときの明治43年5月から翌年7月頃まで住んでいたところです。

名作「生まれ出づる悩み」(大正7年作)に、「私の借りた家は札幌の町はずれを流れる豊平川という川の右岸にあった。その家は堤の下の一町歩程もある大きな林檎園の中に建ててあった」と書かれています。

ちょうど、有島武郎が結婚して間もない頃で、作家の武者小路実篤や画家木田金次郎たちも、ここをよく訪れておりました。

その屋敷も、老朽化のため昭和49年に解体され、昭和57年、野幌森林公園内にある「北海道開拓の村」に復元、公開されています。



作家の有島武郎が妻の安子と当時リンゴ園であったこの地に居を構え、作家武者小路実篤や岩内の漁夫画家・木田金次郎らと親交を結びました。

著作「生まれ出づる悩み」に当時住んでいたこの家の記述があります。

現在、建物は解体し、北海道開拓の村に復元されています。

19

北海道庁立札幌治療院・札幌市助産所跡

菊水5条1丁目 菊寿園



北海道庁立札幌治療院跡・札幌市助産所跡

大正6年から9年にかけて札幌遊郭(通称薄野遊郭)がこの菊水地区に移転し、それに伴い公権力で性病を予防・治療する北海道庁立札幌治療院(院長は警察署長)も薄野から遊郭街のこの位置に移転してきた。

戦後、性病予防法と保健所法が制定され、性病予防は保健所の仕事になったので、札幌治療院は役目を終えた。

その施設を札幌市が買って児童福祉法に基づく札幌市助産所を開設。昭和44年に廃止されるまでの約20年間、妊婦・育児相談、入院出産などで多数の母子の健康を守った。

翌45年(1970)には札幌市初の軽費老人ホーム札幌市菊寿園と日本住宅都市整備公団の複合施設を開設し現在に至っている。



札幌遊郭の菊水地区への移転に伴い、性感染症の予防・治療をする札幌治療院もこの地に移転しました。戦後、同治療院は閉鎖されます。

全面改築後は札幌市助産所となり、昭和44年(1969)に廃止されるまで多くの母子の健康を守りました。

20

札幌遊郭跡

(通称:白石遊郭)

菊水5条2丁目 菊水公園内



札幌遊郭(通称白石遊郭)跡

明治初期、札幌本府建設に集まった大工たちを目当てに料飲店や売女屋が増えたため、開拓使は街外れの薄野に札幌遊郭(一般に薄野遊郭と呼ばれた)を定めてこれらを一ヵ所にまとめた。

薄野が市街地化すると遊郭の移転が計画され、周辺の村は遊郭誘致に名乗りをあげたが、リンゴの病害虫で悩む白石村の果樹園主たちが遊郭用地を札幌区に寄付して誘致に成功した。

大正9年までに移転を終えた札幌遊郭は地名をとって白石遊郭と一般に呼ばれた。写真のように通りに面して30軒ほどの妓楼が建ち並び、通りの中央に小川が流れていた。遊郭の東西の端に大きな門があり、国道36号からこの門に至る道は大門通と呼ばれた。

戦後の昭和26年(1951)、札幌市の風俗取締条例制定とアメリカ軍の撤退で廃業する妓楼が相次ぎ、昭和33年(1958)の売春防止法完全施行で白石遊郭は姿を消した。


 ✓ 着いたらチェック

開拓使は、明治10年(1877)に薄野に札幌遊郭を開きましたが都市化により移転を計画。大正9年(1920)までに、果樹園主から土地の寄付を受け、菊水地区に移転しました。

「白石遊郭」と呼ばれ、現在の菊水2～5条近辺に30件もの妓楼が軒を連ねました。

21

白石村1番

菊水上町2条3丁目 白石公園内



白石村1番

白石開拓の第一歩は、旧暦明治4年11月(新暦の12月)、旧仙台藩白石城主片倉小十郎の元家来とその家族が、家老佐藤孝郷に率いられて、この地に開拓のiswaを振ったのに始まる。

原始林を切り開き、幅18m、長さ3,600mの道路(現在の国道12号)を造り、この道路を挟んで、道路の右と左にそれぞれ1番から50番までの番号をつけて土地割りをした。厳しい寒さの中、翌5年2月までに100戸の小屋がけを完了し、この年に左右の番号をひとまとめにして1番から100番に変えた。

土地割りの起点となった1番はこの標示板のやや東側にあたり、100番は白石神社の西隣にあたる。


 ✓ 着いたらチェック

白石開拓の第一歩は、明治4年(1871)、旧仙台藩の白石城主の家臣が、望月寒(当時の呼び方。現在の白石区中央付近)に移住したことに始まります。

基点となったのは、現在の菊水と白石中央との境界に当たる地点(白石ご線橋頂上やや西側)。そこから現在の国道12号線沿いに北側を白石左1番、南側を白石右1番と付番しました。